

銅地金輸入急増 スクラップ輸出増

自動車生産・販売とも増加、住宅着工は減少

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

八月前半は、建国記念日を迎えた北朝鮮がミサイル発射などの挑発行為に出なかったこと、中国の銅需要が増加。銅電線を使

う一、七月の送電網投資は前年比一〇%以上増加、カッパーチューブを使うエアコンの生産は前年比一九%の増加となっており、ここ数年では最も高い伸びだった事などのプラス材料もあつたが、LME在庫の急増、七月の中国の新規不動産建設件数は前年比七%減で、二〇一六年九月以来の減少したことから中国需要増懸念から下落したことを嫌気しLME銅相場はDOWN、九月十五日時点で六、四一八・五ドル(セツル)と月初価格より三七三・五ドルDOWNの前半締めとなった

後半は、北朝鮮外相が米トランプ大統領の最近の発言に対し明白な宣戦布告だと述べたこと、十八日開催のFOMCへの警戒感などのマイナス材料もあつたが、米トランプ大統領が法人税率を現行の三五%から二〇%に引き下げる方針を示したことからLME銅相場はUP、十月一日現在、後半スタート価格から二八ドルUPの六、四八五ドル。銅建値七七万円のスタート。

◆月間のドル/円レート(TTS)
一〇・九一→一三・四五(円)

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比五・六%増の六九万五、七六一台であった。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比〇・四%増の三二万八、一七五台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比二・〇%減の八万〇、五六二戸であった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が二二・五%減の四万一、四三九t、スクラップが五一・三%増の二万六、二九一t。

輸入

輸入は電気銅が前年比一〇九・九%増の二一〇二t、スクラップは五・四%減の一万一、四一九t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比〇・三%減の六万〇、〇九七t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比〇・四%増の五万三、五〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

八月の四輪車生産台数は六九万五、七六一台で、前年同月比五・六%増となり一九月連続で前年同月を上回った。輸出は三五万九、五三六台で前年同月比九・九%の増加。

【自動車販売】

九月の国内自動車販売台数(軽除く)は三一万八、一七五台で前年比〇・四%増と、二カ月連続プラス。

このうち、乗用車は二・三%増、貨物は一〇・二%減、バス三二・四%減。

【住宅着工数】

平成二十九年八月の住宅着工戸数は八万〇、五六二戸で、前年同月比で二・〇%減となった。また、季節調整済年率換算値では九四・二万戸(前月比三・二%減)となった。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は減、分譲住宅は増となった。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月比七・四%減、季節調整値の前月比では四・五%減)。

(貸家)

前年同月比では三カ月連続の減少(前年同月比四・九%減、季節調整値の前月比では一・二%減)。(六面へ続く)

【四面より続く】

【分譲住宅】

前年同月比では三カ月連続の増加(前年同月比一二・〇%増、季節調整値の前月比では九・一%減)。

【分譲マンション】

前年同月比では三カ月連続の増加(前年同月比三三・七%増)。

・分譲一戸建住宅

前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比〇・八%増)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比〇・三%減の六万〇、〇九七tと、一三カ月ぶり減少。このうち、内需は四万九、九九三tで〇・三%減と一三カ月ぶりマイナス、輸出は一万〇、一〇四tと〇・四%減少し、一〇カ月ぶりマイナス。品別別では、銅条は一万九、九一三tで六・九%増と一六カ月連続プラス、黄銅棒一万四、四二四tで一・四%減と、一六カ月ぶりマイナス。

【電線】

前年比〇・四%増の五万三、五〇〇t。このうち、国内は〇・四%増、輸出が二・二%増。

出荷部門別では、通信七・一%減、電力二・八%減、電気機械〇・六%増、自動車一・八%増、建設・電販二・五%増、その他内需〇・〇%減。

【輸出】電気銅輸出が二二・五%減の四万一、四三九t。銅スクラップは五一・三%増の二万六、二九一t。

【輸入】電気銅が一〇九・九%増の二、一〇二t。スクラップは五・四%減の一萬一、四一九t。

【見通し】

・自動車は生産が五・六%増。国内販売台数が前年比〇・四%増。生産が一〇カ月連続プラス、販売が一〇カ月連続プラス。

一〇カ月ぶりの販売マイナスから微増ではあるが、二カ月連続プラスが今後も続くか注意が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二・〇%減と二カ月連続マイナス。下げ止まり傾向かどうか今後の動向に注目。

・伸銅品は二三カ月ぶりのマイナスの前年比〇・三%減。このうち、輸出が一〇カ月ぶりマイナス。品別別では、需要の多い銅条が一六カ月連続プラス。黄銅棒は一六カ月ぶりマイナス。

今後ともマイナスに続くかどうか要注意。

・電線は前年比〇・四%増の五万三、五〇〇t。このうち、輸出が二・二%増。出荷部門別では、需要の多い自動車、建設・電販がそれぞれ一一・八%増、二・五%増、全体として回復傾向。

・銅輸出は内需用途から、地金は減少。スクラップはメーカーの買い控え傾向から増加。

・銅輸入は内需用途から地金は増加、スクラップはメーカーの原料地金シフトから減少。

【スクラップ需給予想】

前月に続き流通在庫は、伸銅品生産が好調だったこと、十月の銅建値が月末の一万円アップの七七万円スタートだったことから市中玉は出てくるのではないかと。

需要面に関しても、住宅で再び減少、自動車の生産は好調、販売も二カ月連続増加したが、ここ最近の地金の急騰を受けて足元のスクラップ価格は割高なものになり、メーカーが地金を優先に使用していることからスクラップは余り気味なのではないかと。

【価格・為替予想】

今月は十月十八日から開催される中国共産党大会に向けての経済情勢、米政府の税制改革の進展に左右される。

中国共産党大会に関しては、環境問題、規制も重要な課題となっており、環境規制が厳しくなる中、十月の一カ月間は北京周辺の天津、山西省、内モンゴル、河北省では鉄鋼はじめ素材産業は全面的に生産停止、という発令がなされているとの報もあり、金属の供給が減少するのではないかと。

米税制改革問題に関しては、トランプ政権は九月中旬に議会委員会に税制改革案を提示し、十月に下院、十一月に上院を通過するシナリオを描く。ただ、審議日程に余裕はなく、越年の可能性もあり。

それらを踏まえた十月の銅価格は、中国共産党大会中に鉄鋼はじめ素材産業は全面的に生産停止や環境及び輸入規制が現状もしくは更に厳しくなり、米税制改革がねじれた場合、先月一段高値の六、九〇〇ドルを予測。いずれかの場合は六、七〇〇ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合、先月一段安値の六、四〇〇ドル。

為替は、米税制改革の進展と北朝鮮情勢に左右される。

米税制改革に関しては、スケジュールに余裕がなく年越しの可能性が高いのではないかと。

北朝鮮情勢に関しては話し合いに進展がみられず、更に悪化が進むのではないかと。

それらを踏まえ予測は、米税制改革問題に向けての審議が予定通り進み、北朝鮮情勢で悪化がなかった場合、円安値は九月後半安値の一三円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合、同高値の一〇〇円台を予測。

銅建値に関しては七四〇〇〜八二〇円程度と予測している。